

令和元年度 自 己 評 価 表

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校							
中長期目標 (学校ビジョン)		今年度の 重点目標					
○社会の中で自立して生活ができる力の育成 ○職業生活に必要な意欲と能力の育成 ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体の育成		職業的自立と主体的な社会参加に向けた確かな力の育成 琴の浦教育検証プロジェクトに基づいたカリキュラムマネジメント 地域との協働による魅力的な学校づくり					
年 度 当 初				評 価 結 果 (10月)			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
社会人・職業人としての基礎的な力の育成	○基本的生活習慣の確立(指導部・学年部、学科部、寮務部)	○多くの生徒がSNSを利用し、夜遅くまで長時間使用したり、トラブルにつながってしまったりすることもある。 ○睡眠時間の不足や人間関係の悩み等から生活リズムが崩れたり、学習に向かうことができなかったりする生徒もいる。	○携帯電話等の使い方についてのルールを守る意識を高めるための取り組みを行う。	○「我が家のルール」や「決意表明」を作成し、個々に応じたルールを定めたり、定期的な見直しを行ったりする。 ○個人懇談等を通して家庭と情報共有を行う。 ○講演会や学年集会等で定期的に情報モラルに関する指導を行う。 ○教職員を対象とした情報モラル研修を実施する。	○「我が家のルール」や「決意表明」の作成・提出を求め、家庭との確認を行い「携帯等使用のルール」の意識を促す。 ○昨年に比べ携帯トラブルによる生徒指導が著しく減った。 ○個々のルール作成から日が経過するにつれて、意識が薄くなっている生徒もいる。	B	○「決意表明」の見直しを行い(定期)、再度生徒本人及び保護者に対してルールへの意識を促す。 ○必要に応じ「我が家のルール」の修正・再提出を求める。 ○今後も継続して講演会や研修会を実施する。
		○基本的生活習慣を取り入れた「専門教科共通目標」を生徒に尋ねてもきちんと答えられる生徒が多くない。	○専門教科共通目標が社会人として必要なことであると生徒が理解し、各学年目標に到達しようと常に意識している姿が見える。	○各コースの実習で、専門共通目標の項目を復唱したり視覚的補助を行い理解を深める。さらにふりかえりシートの活用を促し、年間を通した指導を徹底する。 ○全職員が自ら見本となるような動きを生徒に見せる。	○授業開始時に復唱をす習慣ができたコースが増えた。視覚的補助としての掲示物も増えた。振返りシートを活用し、生徒の到達度チェックを行うようになった。しかしながら7月の現場実習事前学習時の確認では正確に答えられる生徒はまだ多くはなかった。	C	○繰り返し復唱の励行とコース学習終了時の到達度チェックを繰り返す。 ○共通目標の表現を覚えやすいことばに変えることも視野に入れる。
		○声かけなどの起床の支援をすれば、起床時間に起きることのできる舎生が8割程度いる。	○目覚まし時計などを利用して、8割の舎生が自力起床できる。	○自力起床強化期間を設定し、自分で起きる習慣の定着を図る。	○自力で起きられない舎生は数名いるが、ほぼ8割の舎生が目覚ましや物音などのきっかけで起きれるようになっている。	B	○強化週間を設けて取り組んだことで意識も高まったので、後半も同様に取り組みを実施するとともに、自分で設定した目覚まし時計で起床できるよう取り組んでいく。
	○学習における基礎・基本の徹底(研究研修、教務部)	○大多数の生徒が守れているが、「学習のルール」が日がたつにつれて指導者・生徒ともに曖昧になることがある。	○授業準備、チャイム着席、授業のあいさつは年間を通してできている。 ○姿勢、発表は生徒アンケートの結果が前期に比べ後期は向上している。	○全ての教室に「学習のルール」を掲示するとともに、将来に繋がることを理解させ継続的な指導を行う。 ○学習規律を高め、良い授業づくりのための学習環境を再点検し整える。 ○授業に集中できない事が多くなった場合は、生活習慣が整えられるよう保護者と連携を図ったり、対処方法を指導者が共通理解し共通実践したりする。	○学校生活アンケートを実施。授業準備・チャイム着席・授業のあいさつは9割、姿勢・発表は7割の生徒ができています。自己評価した。 ○学習環境についてはクラスにより整備の仕方はそれぞれである。	B	○曖昧にならないためにも、指導者への呼びかけと生徒への指導を継続する。 ○学習環境の整備についての例を提示する。 ○来年度に向け学習のルールを見直す。
		○職員がそれぞれの担当教科を熱心に指導しているが、系統立てた支援ができるまでには至っていない。	○職員の授業力を向上させ、生徒に「わかる授業」『できる授業』を提供する。	○スーパーバイザー派遣事業研修を活用し、職員全体で研修会を2回実施する。	○スーパーバイザー派遣事業研修を活用し、6月に講師を招聘しての研修会を実施した。職員アンケートの結果9割以上の職員が分かりやすかったと答えた。11月には授業公開を実施予定。	B	○引き続き職員のニーズに応じた研修会を実施するように計画し、全職員にとって有効な研修となるようにする。
		○ライフスキルの育成(進路部)	○自己理解が難しく、進路選択がうまくできない生徒がいる。 ○働く心構えが不十分なままに就職してしまう生徒がいる。	○生徒が卒業後の生活について具体的に考え、必要な内容に意欲的に取り組んでいる。	○進路行事の内容を見直し、将来について自分で考え、行動する機会を設定する。 ○卒業生の就職先から情報を収集し、必要な指導についてまとめ、職員研修、通信等で発信する。	○卒業生の就職先や現状についてまとめ、研修会で情報提供を行った。行事については、内容を見直しながら、必要な指導についての検討をすすめている。	C
	○職業的スキルの伸長(学科部)	○進路先からのニーズとしてフォークリフトの運転資格を持つ生徒はいないか、との要望がある。	○講座の受講だけで運転可能となるフォークリフト(1t未満)の運転資格を取得する生徒がいる。 ○積極的に受検し、練習に真摯に取り組んでいる。	○綿密な受講計画を立て、生徒の合格意欲が維持できるように工夫する。	○11月に実施することが決まり生徒の受講募集状況を待っている状況である。	—	○立案、計画中。
		○現場実習での課題について専門教科での学習で解決するような連携が十分に取れていない。	○生徒個々の課題を容易に進路部と学科部が共有し、進路実現のための連携がより進む。	○生徒個々の課題を端的に共有できるよう方策を進路部及び学年部と協議し見つける。	○実習後の課題の共有方法が報告形式かつクラス単位で実施されるため、コース毎にまとめにくい状況である。端的な個別設定目標を簡単に抜き出す効果的な方法をまだ見いだせていない。前期現場実習後の生徒状況を見ながら協議を始める予定である。	C	○学年部と進路部に相談し、協議を開始する。
		○各コースで地域産業との連携を進めているが、社会人としてどういうふうに評価されているかを把握している生徒はまだ多くない。	○地域の産業と携わり協働することで、他者からの評価を得て、自分の今後の目標を立てることができる。	○協働する際に、生徒への評価のシート記入をお願いし、専門共通目標の他者評価を専門教科実習に活かす。	○地域産業の方にどのように入記していただくかを検討している。	C	○実際の地域の方に意見を聞き、負担の少ない評価シート作成を行う。
	地域で生きる力の育成	○自治活動の推進(指導部、寮務部)	○生徒会活動や学校行事において、司会や運営等、年間を通じて生徒が携わる場面が増えてきている。	○生徒が主体的に活動や行事の企画運営に関わることができる。	○生徒主体の自治活動となるよう活動の目的や課題を確認し、計画的に話し合う機会を設ける。 ○生徒会執行部会を定期的に開催し、生徒間での相互評価に取り組む。	○全校レクリエーションや委員会活動を通して、主体的に活動に取り組む生徒が増えてきた。 ○委員会活動終了後、生徒会執行部の活動報告会を行うことで、自分たちで委員会を運営する自覚を持ちつつある。 ○行事が立て込むため、振り返り等を主題とした定期的な生徒会執行部会を設けることができなかった。	B
○寄宿舎が過ごしやすい場となるように自治会でスロガンを掲げ、達成するための月目標を決めているが、個人でできる取組を考えるのみで、全員で取り組んだり振り返ったりする機会がない。		○舎生全員で具体的な取組を考え実践し、8割の舎生が月目標を達成できている。	○部屋会やリーダー会などで、みんなが意見を出しやすい仕組みや環境を整える。 ○3役や部屋長と連携し、自己評価の共有や取組内容を決め、支援する。	○3役や部屋長を中心に取組を考え、声かけを行ったり自己評価を全員で共有する場を設けたりした結果、意識して実践する姿が見られるようになり、8割の舎生が月目標を達成できている。	B	○後期から新たな役員や部屋長となるが、自己評価に加え客観的評価も取り入れていながら引き続き支援していく。	
○生涯体育、文化、芸術活動の推進(主幹・部活動等)		○休日に運動したり、地域のスポーツクラブや文化活動をしている生徒は少ない。	○地域のスポーツクラブ・文化芸術活動サークル等への参加方法がわかる。	○障がい者スポーツ担当者・部活動担当者を中心となって、各種イベント参加や出展参加を促す。 ○大会参加方法や活動状況を掲示したり、発表したりし生徒に情報発信していく。 ○外部団体等との連携を図り体験活動やクラブ参加を推進する。	○掲示板で案内をしたり、声掛けを行うことで昨年度以上に大会参加率が上がった。 ○活動状況を掲示することで次への参加意欲につながった。 ○文化活動においても音楽発表・美術作品展等地域に発信できた。	B	○計画通り、地域にあるスポーツ団体を紹介したり、活動している先輩の話を聞く会等を実施する。 ○ホームページに大会や大会参加方法を掲載する。
教職員の専門性・授業力の向上	○教育課程の見直し(研究研修・教務部)	○教科会は毎年実施しているが、各教科間の連携(横断的連携)は十分とは言えない。	○生徒が「わかる」「できる」授業を実感し、学習意欲を高め、生活に学んだことを活かしている。	○新学習指導要領を踏まえて年間指導計画及び教育課程について見直し、検討する。	○6月に招聘したスーパーバイザー派遣事業研修の講師からの話を受け、7月に職員で新学習指導要領を活用して年間指導計画を横断的に検討する会をもった。	B	○新学習指導要領について、随時情報提供をするとともに、11月の授業公開時には新学習指導要領を踏まえた指導案にて研修を実施する。
	○地域資源を活かした教育活動の推進(総務部・支援部)	○学校関係者評価や学校評議員制度により学校運営に関する意見をいただいていた。	○コミュニティ・スクールとして学校、地域関係者が連携・協働体制を確立する。	○スケジュールに基づき、計画的に組織を立ち上げ、運営を行う。	○第1回学校運営協議会を開催し、学校の運営方針等について協議を行い、承認いただいた。	C	○学校運営方針等の確実な遂行と、必要に応じて学校運営協議会との連携を図る。
	○学校や企業に対し、「琴の浦の教育」について十分に伝わっていない。	○「琴の浦の教育」の理解を進めるための取り組みを、工夫して行っている。	○就労による社会自立に向けた指導・支援について研修の場の設定。 ○学習場面への参加や公開による啓発活動の実施。(学校説明会、オープンスクール、企業参観日等)	○教職員対象オープンスクールでは、参加型の授業見学や情報提供をもとにした協議を実施。体験入学では授業見学の他に、情報提供やミニ研修を実施。参加者が積極的に関わったり、ニーズに応じて求めたりできる形の取り組みを行っている。	B	○11月の学校説明会や企業参観日では、参加者のニーズと本校が伝えたいことを整理し、参加者にとって有意義な内容になるよう計画する。	
	○組織的な指導・支援、対応力向上(総務部)	○校内研修を計画的に実施し、教職員としての専門性を高めることが必要である。	○多くの教員が研修に参加し、専門性を高めることに取り組む。 ○コンプライアンスの意識を常に持ち、職務の遂行にあたる。	○初任研やエキスパート教員の公開授業、自主研修等に参加する。 ○終礼や長期休業中にコンプライアンス研修を実施する。	○活動の研修を開催され、積極的に参加する教職員が増えつつある。 ○職朝や終礼での周知・連絡、夏季休業中に研修を実施し、アンケートで回答した職員の95%が高い意識を持つことができた。	B	○エキスパート教員の授業研が計画されているので、研究研修担当と協力して授業研修への積極的参加を働きかける。 ○職朝、終礼にて注意喚起を継続的に行い、意識付けを図る。
	○業務改善において時間外業務は前年度7%削減の達成状況であった。	○時間外業務の10%削減。	○毎月の衛生委員会で時間外業務時間削減状況について確認し、全職員へ報告する。	○毎月の衛生委員会で実態を確認。掲示板等に結果を掲載し、職員へ意識付けを図った。また、必要に応じて個人へ働きかけを行い、時間削減を行った。	C	○毎月、具体的数値を示し、タスク及びタイムマネジメントについて全職員への働きかけを継続する。	

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 質化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]